

2019 年度学校自己点検・自己評価報告書

2020 年 5 月

学校法人 ISI 学園 専門学校 東京ビジネス外語カレッジ

2020 年 5 月作成

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	1	基準 4 教育成果 専門課程	13
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか.....	1	4-18 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか.....	13
1-2 学校の特色はなにか.....	2	4-19 資格取得率の向上が図られているか.....	13
1-3 学校の将来構想を抱いているか.....	2	4-20 退学率の低減が図られているか.....	14
基準 2 学校運営	3	4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか.....	14
2-4 運営方針は定められているか.....	3	基準 5 学生支援 専門課程	16
2-5 事業計画は定められているか.....	3	5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか.....	16
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか.....	4	5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか.....	16
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか.....	4	5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか.....	17
2-8 意思決定システムは確立されているか.....	5	5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか.....	17
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか.....	5	5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか.....	18
基準 3 教育活動 専門課程	7	5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか.....	18
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか.....	7	5-28 保護者と適切に連携しているか.....	18
3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか.....	7	5-29 卒業生への支援体制はあるか.....	19
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか.....	8	基準 6 教育環境	20
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか.....	8	6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか.....	20
3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか.....	9	6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか.....	20
3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか.....	9	6-32 防災に対する体制は整備されているか.....	21
3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか.....	11	基準 7 学生の募集と受け入れ	22
3-17 資格取得の指導体制はあるか.....	11		

7-33	学生募集活動は、適正に行われているか.....	22
7-34	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか.....	23
7-35	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか.....	23
7-36	学納金は妥当なものとなっているか.....	24

基準 8 財務 25

8-37	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか.....	25
8-38	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか.....	25
8-39	財務について会計監査が適正におこなわれているか.....	26
8-40	財務情報公開の体制整備はできているか.....	26

基準 9 法令等の遵守 27

9-41	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか.....	27
9-42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか.....	27
9-43	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか.....	28
9-44	自己点検・自己評価結果の公開はしているか.....	28

基準 10 社会貢献 30

10-45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか.....	30
10-46	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか.....	31

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	4	学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などは、当校のホームページ、入学案内書に明示。コース別教育目標も示されている。	理念・目標・育成人材像の浸透は図られている。世界パンデミック下で変容する国際経済社会での教育指針の再検証は必要。
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	2018年度から2020年度の中期ビジョン戦略マップ「Vision2020」を掲げ、戦略目標・数値目標を達成するためのKPIを確立している。	具体的な計画・方法は実行を伴わないと意味がないので、その実行力をきちんと人事評価することでPDCAサイクルを循環させる。
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	3か年に1回時代の変化に対応し、中期計画を立て、本校のバランススコアカード、戦略目標を立てている。	日本人学生、保護者の方を始めとするステークホルダーの方々のニーズを常に吸収するとともに、アンテナを高く張る必要がある。
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	5	教職員には学内に学校法人ISI学園の理念が記載された額を掲示しており、学外には学校案内書・ホームページで広く公表している。	教職員にはグループ全社を挙げて行う年度初めのキックオフミーティングで周知徹底されているが、留学生への周知の工夫が必要。

1-2 学校の特色はなにか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	5	2019年5月1日現在、計22か国、310名の日本人・外国人留学生在籍している。毎日がビビッドな環境の中で学習に励んでいる。	就職系では質の高い企業への就職内定率100%を実現させること、進学系では日本人学生を中心に海外大学進学プログラムにて卒業後までの実績を出すことである。デジタル・ビジネスコースなど新コースにも着手

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	5	時代の変化に合わせて3年ごとに中期計画を策定し、そこから戦略マップ・戦略目標・KPIそして個人目標へと落とし込んでいる。	経団連の動きや入管制度の改訂など、動きを敏感にキャッチしての就労支援や募集活動に活かしている。

総括	課題及び改善内容
<p>理念・目的・育成人材像が抽象的になるのを避けるため、9項目の行動指針を策定し具体的な実践をするようにしている。並びに中期計画では上記の理念等を普遍の原理とし、バランススコアカードに基づく戦略マップに落とし込み、戦略目標・数値目標・KPIを明確にし、一人一人の教職員がそれに沿った形で個人目標を半期ごとに立てるようにし、人事考課を行っている。</p> <p>予測できない変化に柔軟に対応するためにもダイバーシティ学校運営を基軸に本校の将来構想を考えている。国際社会のニーズの変化に柔軟に対応しながら、絶え間ない教育改革に努め、日本人学生と外国人留学生在が1:1で学ぶ環境の整備、そして新たな価値提供を図っていく。</p>	<p>2021年度、デジタル・ビジネスコース開設も踏まえ、より優秀な日本人層の拡大を図っていく。</p> <p>日本人学生・保護者・業界・出身高校からの信頼を基盤にしながら、留学生30万人計画や日本再興戦略、中核的専門人材の育成といった政府のグローバル人材育成施策に沿った学校創り、運営をさらに加速度的に進めていく。これまでのグローバル社会の概念の変容に注視し、産業・経済構造の変化を見据えたコース構成を進めていく。</p>

基準 2 学校運営

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	5	『Vision2020』中期経営計画をもとに年度ごと戦略目標・数値目標・KPIを策定し、戦略マップに基づいて学校運営BSCを設けている。	今年度は中期3か年計画の最初の年にあたり、前3か年計画が順調に終着したこともあり、それを土台とした新たな改革に着手している。
2-4-2 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	4	全体会議であるキックオフミーティングで説明し、ファイルサーバーにも保存をしておいても閲覧できるようにしている。	学校内での運営方針は共有されているが、部門間シナジーが完璧に図られているとは言い難い。来期に向けて改善が必要。
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	4	交換留学制度などの運用を開始し、留学規定などを全学生に公開、共有が実施できている。	今後の新規事業として拡大する企業連携諸規定などを速やかに策定、公開できるような体制整備をきちんとする必要がある。

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	4	『Vision2020』中期経営計画に基づいて、2019年度の年度目標を設定し、学校の目的、目標を達成するために事業計画を個人目標レベルにまで落とし込んでいる。そして年間スケジュールに沿って事業計画を進めている。	教育の質向上と本校のブランド力強化のため、コースの再編とカリキュラム改革に着手。同時にシラバスの充実、見える化も図り、講師間のリレー式教授、チームティーチングが飛躍的に進んだ。今後はその質向上に向けた取り組み強化が必要である。
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	4	事業計画に沿って運営をしているが、日常の忙しさに埋没してしまい、ルーチンワークをこなすのに精いっぱいになる時期もある。個人の努力で運営をするのではなく、チームで運営していけるよう組織力も強化していく必要がある。	事業計画に沿って学校運営をするには、管理職や担任教師のみならず、学校組織全体で取り組む必要がある。日々の業務に追われるのではなく、日々学生たち触れながら運営に携わるガバナンスをより強化することが大事である。

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-6-6 運営組織図はあるか	5	運営組織図はきちんと作成されており、グループウェアでいつでもだれでも確認できるようになっている。	特になし
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	5	理事会・役員会は定期的に行われており、運営組織・意思決定機能は学校の目的・目標を達成するための効率的なものになっている。	特になし
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	5	役職ごとの研修会で、役割基準の浸透を図り、職務分掌表で教職員一人一人の職務分掌が明確になっている。	特になし

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	3	2019年度途中で中途退職した常勤職員1名。常勤教員1名も産休を取得したが、後任教職員もすぐに補充でき、組織運営は安定している。	教職員のレベルに分けて階層別に定期的な研修を行っているが、職務別の研修が整備できていない。この点が課題であり今後の改善・検討が必要である。
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	5	人事考課制度は整備されており、具体的且つ詳細なものがグループウェアでいつでも閲覧できるようになっている。	特になし
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	5	人事考課制度に詳細に昇進・昇格制度が記載されており、グループウェアでいつでも閲覧できるようになっている。	特になし
2-7-12 賃金制度は整備されているか	5	給与規定がきちんと定められており、グループウェアで閲覧できるようになっている。	特になし
2-7-13 採用制度は整備されているか	5	ISIグループのホームページ上で「求める人材」として5項目の条件を明示しており、個々の採用ステップについても明確になっている。	履歴書・職務経歴書による書類審査を通過すればwebによる適性検査を行う。その後面接により「求める人材」に合致するか採用可否を決める。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	5	豊島区に教職員の異動があった場合、採用届・解職届を提出しなければならず、教職員名簿も併せて提出している。	特になし

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	5	毎週行われる定例会議で審議事項を討議し、最終的に校長の承認を得るシステムが確立されている。	定例会議が毎週なので意思決定のスピードを上げる必要はあるかもしれない。
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	5	毎週行われる定例会議で審議事項を常勤教職員全員で討議し、最終的に校長の決意をいただいて意思決定する仕組みが制度化されている。	会議は制度化されているが、毎週 1 回なのでこの意思決定のプロセスのスピードを上げる必要はある。
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	5	会議体系に加え、日々の稟議に関してはグループウェアで階層別に決裁権限が割振られスムーズに承認を得るシステムも確立している。	学校運営に必要な人材の確保と育成に関して研修制度が導入された。教職員の定着と各教職員の着実なスキルアップを図っていく。

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	5	情報システム化がなされ、時間的なロスが少なく効率化が図られている。また業務の見える化を進めており、個々の作業効率 UP が図られる。	学生管理システムであるスクールリーダーが OS の関係上 2019 年度から CampusMate-J にリニューアルされ、SL からの引継ぎに混乱のないよう運用を行っている。

総括	課題及び改善内容
<p>今後展開が拡大するであろう企業連携などの諸規定整備も進めていき、明確でスムーズな学校運営に努めていきたい。</p> <p>学校の目的・目標を達成するための事業計画をきちんと立て、バランススコアカード（BSC）に落としこみ、その計画にそって運営している。より状況を掴むため会議などでチェック・修正・改善できるよう運用面も工夫したい。</p> <p>学校法人 ISI 学園並びに ISI グループでは、人事や賃金、処遇に関する制度は整備されている。また学園で使用しているグループウェアにそれら諸規定が保存されており、いつでもだれでも閲覧できるようにしている。</p> <p>勤務管理や交通費精算から稟議書までありとあらゆる業務を、グループウェアの E-SYSTEM を活用し、情報システム化による業務の効率を図っている。学生管理ではスクールリーダーを活用しているが OS の関係上、2019 年度からは CampusMate-J に移行した。</p>	<p>今後多様化する学生ニーズに応えるためにも、新規事業としての拡大を見越した諸規定整備を進めていく予定である。</p> <p>事業計画に沿って運営されているかチェック・修正・改善を図る時間をきちんと設け、完全な形で運用できるように努力していく。</p> <p>学校運営に必要な人材の確保と育成は課題として認識している。部門別研修制度による常勤教職員の着実なスキルアップ並びに全体のレベルアップを図ることが出来る制度であるが運用には改訂の余地がある。</p> <p>2019 年度にはグローバルビジネスコースが職業実践専門課程の申請を行い、2020 年 3 月に認定されている。</p>

基準3 教育活動 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	GBC 総研主催の「教育課程編成委員会」に参加し、求める人材像、そのためのカリキュラム、科目についてチェックしている。 また企業との連携を深め、意見・助言を受けている。	経済社会ニーズに合わせて、弾力的に運用できるカリキュラム・科目変更を実施していく必要がある。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を養成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	4	本校では、学内で定期的にTOEIC受験を実施している。学外の一般受験者のスコアも加えている。英語成果については、入学前と在籍期間中に試験を実施し、レベルを確認している。 日中医療通訳コースでは、医療通訳士試験受験、医療関連資格受験を進めている。 留学生については、日本語能力試験のN1合格を目標に、ステップとしてのN2、N3合格にも力を入れている。	学試験において、学力的に一定のレベル以上の学生を入学させているが、学力差やコンピテンシーギャップ（英語の場合、4技能でそれぞれレベル差が生じる等）が生じる。 対策として、指導方法、教材検討に加えて、クラス別授業を実施し、学生の学力に応じた授業展開をしている。 特に語学については、クラス数を多くするなどに対応をしている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	4	学科カリキュラムは、経済社会のニーズに対応できるように編成し、在籍期間中、スムーズに指導・学習できるようにしている。	よりより教育体制を目指して、定期的カリキュラム、授業科目を見直していく必要があるため、引き続き、検討・改定をしていく。
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	4	教職員・講師によるカリキュラムについての検討会（各種の科目担当者会議等）を実施し、その結果を外部機関（企業、GBC 総研等）から意見を聞き、カリキュラムに反映させている。	企業関係者からの業界情報や求められる人材像を確認していく必要がある。 本校では、企業との連携や業界関係者による授業や講演を通して、実施している。
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	4	各学科コースのカリキュラムは学内の教職員による検討会（教務会議、科目担当者会議等）で検討し作成している。	学内で科目担当者会議を開き、カリキュラムの検討会を実施しているところである。
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	4	定期的カリキュラム内容の見直しを行い、新年度にて、新カリキュラムとして実施する流れにしている。	常に検討・修正をしていく必要がある。本校では、毎年、成果分析、新規への検討をしている。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	4	科目について、毎年、内容確認・検討を重ね、必要な場合、修正・新科目の設定等を行っている。	年度ごとに、科目と内容の確認を行い、検討しつつ、定期的に改定している。今後も社会のニーズとマッチングさせる必要がある。
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	4	本年度は、シラバス内容、作成フォームについて、大きな変更を行い、次年度に実施予定である。	質の高い教育を実現するために、科目が多様化し、それに応じたシラバス作成に検討に時間がかかる。適切に検討とシラバス作成の努力をしている。
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4	毎年、前期・後期にそれぞれ、研修会を実施し、教育目標の確認、シラバス作成についての指導を行っている。	今年度は、シラバスシートを改定し、より見やすいものにした。今後もこうした努力を続けていく。

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	評価	評価	現状・具体的な取り組み
3-14-10 学生による授業評価を実施しているか	5	本校では、前期と後期の2回、「学生満足度アンケート」を実施している。本年度は、一部内容を変更して実施した。得られた結果を、授業評価と改善案として作成をし、次年度に活かしている。	今年度は、内容の見直し、アンケートのとり方をQRコード使用によるICT活用を行い、迅速に対応できるようにしている。
3-14-11 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	4	アンケートにおいて、授業評価、授業満足度について確認できる項目を入れている。	各授業についての内容理解・満足度等が評価できるようにする必要があり、今年度より、そうした項目を入れている。

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-15-12 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	4	教員・講師採用において、が学歴・経歴だけでなく、学生とのコミュニケーションといった点も考慮して選考している。	本校の理念・教育目標を理解し、学生指導を適切にできる人材の採用がさらに重要になっている。より良い人材の確保育成に力を入れている。
3-15-13 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	4	授業科目の専門性にあった教職員募集に力を入れている。	科目が多様化しており、担当できる講師の確保が課題になっている。これまで以上に求人・採用活動に力を入れている。
3-15-14 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	5	本校では、専門性はもちろん、学校での勤務についての適性関係も厳しく見ている。	昨年度と同様に、評価方法について、評価項目、内容等、多方面から評価・判断できる方法を検討し、改善している。

3-15-15 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4	学校主催にて、研修会を年2回実施。加えて、科目担当者会議、授業交流会、チームミーティング等を定期的実施している。また科目担当者会議を開催している。	科目が多様化していることもあり、分野ごと、科目ごとでの分科会等を実施し、対応している。
3-15-16 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	4	教授力の把握は、年2回実施の満足度・授業評価アンケート結果をもとに、授業理解度、満足度等を確認し、担当講師と面談等を実施している。	各種教材、ICT関連等を使って、より良い授業実施による教授力強化も実施している。
3-15-17 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	4	科目別の担当者会議や打ち合わせによる意見交換会、授業検討会を実施している。科目担当者による会議や部会を定期的実施している。	入学する学生の基本的な学力は高まっていると思われるが、個々に学力に応じた指導に向けての工夫に向けて、授業方法、学習指導について、今後も検討していく。
3-15-18 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	4	現在、教務(専任・講師)での組織化を強化しており、コミュニケーションが取れやすくなっている。	新規の講師も増えており、講師研修等が必要になっている。現在、定期的な研修会に加えて、事前研修、ベテラン講師による支援がある。
3-15-19 非常勤講師間で適切に協業しているか	4	本校では、学科コース内、及び科目間で担当、コース長による対応をしている。加えて、経歴の長い講師による支援体制がある。	外国籍の講師、新規の講師への研修、コミュニケーションが必要になっている。これらについて、研修機会を増やしている。また外国籍の専任をおいている。
3-15-20 非常勤講師の採用基準は明確か	5	昨年と同様に、講師の採用には非常に厳しい基準(授業力、人間性、本校理念との適正等)で臨んでいる。	授業科目を適切に指導できる講師の確保・育成にさらに力を入れていく。

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-16-21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	本校では、成績及び単位認定評価について、明確な基準にて行っている。 年2回の期末試験を実施し、試験点、出席点、平常点による総合的な成績評価、及び単位認定を行っている。	成績・単位認定について、より明確化のため、GPA評価を利用している。奨学金等の利用にて、効果が出ている。
3-16-22 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	5	提携大学との単位互換・単位認定ができるようになっている。加えて、評価方法改善・GPA制度導入等により、国内外の高等教育機関との単位互換・同認定がスムーズにできるようになっている。	引き続き、評価・認定については、内容やフォームの標準化・明確化を進めている。

3-17 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-17-23 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	5	毎年、ISI グループ内にて、教育目標を定めている。これをもとに、各ポリシーを作成し、学科コース、カリキュラム等の、目標・資格を設定している。	経済社会状況の変化に合わせて、定期的カリキュラムの見直し、関連資格の設定、といった機会を作り、教育目標・資格等について検討をしている。
3-17-24 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	4	本校では、カリキュラム・授業において、目標となる資格を設定している。 授業においても、資格の学内受験、対策としての e-learning 等をすすめている。	定期的カリキュラム・授業内容を見直している。 目標となる資格についてさらに検討する必要がある。

総括	課題及び改善内容
<p>資格試験を推進するとともに、今後、必要となる知識・技能系の指導とその成果を示す資格試験受験を強化に努めている。</p> <p>科目改定・新科目導入、英語ホスピタリティコースが新設・開始された。2021年度には、グローバルビジネス学科において、デジタル・ビジネスコース新設予定である。</p> <p>アンケート項目、実施方法を見直した。項目については、各科目の授業内容や理解度を確認できるようにしている。実施方法については、従来の紙主体のものから、QRコードを使用によるICT化を進めている。</p> <p>本校に在籍中、学生が充実した学生生活と意味のある授業を受けること、そして社会で活躍できる人材となって卒業ができる体制の強化に向けて、本年度も取り組んだ。このことを念頭に置き、適正な教職員・講師の確保、研修等を通して、よりより学校環境・人材確保・育成作りに力を入れた。</p> <p>教育成果・学習成果として、資格試験受験と合格・取得に力を入れている。資格取得は、自分の学習成果を示すものばかりでなく、就職・進学に有利となり、また次の進路での有益なものになると期待される。各コースには、必修の資格も定めている。加えて、留学生は、日本語能力試験受験対策も行っており、日本人と同じく、重要なものとして位置づけている。</p>	<p>対象コースの学生向けにTOEICの学内受験、軸となる資格試験実施・合格にはさらに力を入れている。今後も、必要となる資格について、検討・導入を続けていく。</p> <p>従来のアンケートは、集計と結果までに時間がかかり、フィードバック、改善策検討・実施までにラグが生じていたが、内容・項目の修正、実施方法を改善し、効率的に行えるようになってきている。これらをもとに、今後も状況の把握、評価、改善を早い段階で行っていく。</p> <p>優秀な指導者の確保に取り組んだ。採用後も長期で勤務できるように、研修会等での育成活動を行っている。引き続き、授業・学習指導、学生支援・指導のできる人材の確保・育成に力を入れていく。</p> <p>各学科コースにおいても、軸となる資格を設定し、それぞれ受験対策・合格への指導を実施した。今後も変わらず、さらに強化していく予定である。</p>

基準 4 教育成果 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

4-18 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-18-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5	ISI グループにて、キャリアセンターを設置し、就職・進学関係の支援・指導に力を入れているところである。また本校に、キャリア指導の職員を常駐させ、進路指導対応ができる体制になっている。	就職希望者の希望する業種が多様化しており、それに応じることができるように、業界分析・企業開拓・求人数増加をしていく。 同様に、留学生のための求人増も行っていく。
4-18-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	5	進路結果について、定期的に動向がわかるように、情報収集・整理と、分析できるように、様式、データ整理ができています。	学生との定期面談、連絡、報告体制を整備しており、情報の把握・内容更新ができるように努めている。

4-19 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-19-3 資格取得率の向上が図られているか	4	本年度も、学校全体で語学分野の英語能力向上として、TOEIC 受験・スコアアップ指導を強化した。各学科コースでは、ビジネス関係ではビジネスパスやマナー検定・簿記を、医療系では、医療通訳士、医療事務検定の受験に力を入れている。また留学生は日本語能力試験対策の指導を実施している。	語学関係では、英語（全学生）と日本語能力（留学生）を軸に指導している。学力差に対応できるように、クラス分けによる授業の実施、学力差にあわせて多様な指導に取り組んでいる。 語学以外でも、マナー等、多くの資格受験への指導にも取り組んでいる。
4-19-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	資格取得状況について、個々人の獲得状況について整理できるようなファイルを作成し、状況を把握できるようにしている。	資格取得状況について、より正確な情報がつかめることが求められており、面談以外に、学生からの情報提供・アンケート等を実施している。

4-20 退学率の低減が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-20-5 退学率の低減が図られているか	4	本校では、入学してから卒業まで、充実した学生生活が送れるように、入学試験の段階から厳しい審査を行っている。入学後も、年4回の面談、個人対応、進路指導を充実させている。	①経費支弁者の支弁環境変化に伴う退学、②留学生で本国の支弁状況変化やビザ関係で帰国のための退学、が見られた。経費支弁については、公的機関の支援制度を利用。留学生についてはビザ等のルール指導を徹底していく。
4-20-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	5	本校では、管轄の豊島区、東京入国管理局に在籍についての情報を提出しており、定期的に人数を把握できる体制になっている。	定期的に豊島区、東京入国管理局（留学生）に退学者数、その推移を提出していると同時に、退学者を減らす各種の指導を実施している。支弁能力を正確に把握していくことが重要になっている。

4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-21-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	4	昨年度より発足した「TBL 同窓会」や担任等による卒業生との連絡により、卒業生情報収集、来校機会が増えている。とくに、卒業生からの就職支援が目立っている。	本校の卒業生の活動範囲が広く、海外で活躍するケースも多いため、情報収集に時間がかかる。広報関係で卒業生の活動についてのインタビュー機会も増えており、これらを有効に使っていく。
4-21-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	3	卒業生の就職先での活躍が見られるようになってきた。今年度、卒業生による求人紹介も増えている。	同上 同窓会 HP 等を利用して、卒業生の動向を把握していく。
4-21-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	4	校内のプレゼンテーション大会の結果を、提携している企業関係者に提供している。	さらに充実させていく。
4-21-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか。	3	2019年度一般社団法人言の葉協会『教育がもたらす人生の幸せ』の言の葉大賞にて学生が入賞。	今後もこのような機会を増やしていく。

総括	課題及び改善内容
<p>卒業後の進路として、就職内定数（率）の増加は、本校の最重要な位置づけにある。ISI グループのキャリアセンター主導のもと、進路支援をしている。2019年度では、学内説明会実施、求人紹介数を増やすと同時に、個別面談機会をさらに増やしていった。</p> <p>進路指導と同様に、資格取得は、重要な位置付けをしており、教育目標設定、カリキュラム作成において、常に念頭に置いている。</p> <p>本校で在籍期間中、充実した学生生活が送れるように、入学試験の段階で、厳しい審査を行っている。支弁・学力はもちろん、面接を通して、適性、学業意欲等も見ているところである。学業については、目標を見失うことなく継続できるように、学習支援・指導を積極的に行っている。</p> <p>昨年度より開始した産学連携によるプロジェクト演習が本格化し、本年度も、課題への取り組み、プレゼンテーション大会を実施した。</p>	<p>2019年度も、高い就職内定率を達成している。今後も、企業連携をすすめ、関連業界の求人獲得に力を入れていく予定である。</p> <p>2019年度より、公的機関の支援制度が利用できるようになっており、それらを活用して、学業継続をしていく。</p>

基準5 学生支援 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-22-1 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	キャリアセンターを設け就職・進学ともに適正人員を配置し、授業や個別相談体制を敷いている。	キャリアセンター職員の移動などで年度途中内定率が伸び悩んだが、後期には人員も固まり充実した支援体制が敷ける形となった。
5-22-2 就職に関する説明会を実施しているか	4	キャリアセンター・担任による就職ガイダンス、合同企業説明会を定期的に行っている。	コースによって実施回数が異なるため、企業や求人を精査し、年間スケジュール化する必要がある。
5-22-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	5	1年次は前期と後期の年4回実施。2年次は随時キャリアセンター職員並びに担任が学生個別面談を実施している。	特になし
5-22-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	5	就職希望者に対してキャリアデザイン、就職指導、PCの授業内で履歴書の書き方や面接の仕方に関する指導を行っている。	留学生に対して、日本独特の就職活動を理解させ、しっかり内定率を上げるための体系を確立する。

5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-23-5 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	全クラス担任制を敷き、個別面談も年に4回実施している。加えて事務局でも学生相談に乗る体制を整備し、有効に機能している。	まだまだ学生相談に関する体制は個人のスキルによるところが多く完全なものとは言い難い。今後専門相談員の配置を検討していく。

5-23-6 学生相談室を開設しているか	3	個別に相談できる相談ブースと会議室を併用して運用している。担任による個別相談は行っている。	プライバシー空間は会議室のみなので、会議等で使えないこともある。計画的な運用を検討。
5-23-7 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	2	キャリアコンサルタントは常時いるが、その他専門カウンセラーはいない。担任による個別相談を中心にカウンセリングを行っている。	メンタル面での不調を訴える学生も増えてきているので、専用カウンセラーもしくは専門の研修を受けた職員の配置が必要である。
5-23-8 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	4	外国人留学生が在籍していることから留学生に対する学生相談体制は教務・事務局連携の下、体制は整備され、有効に機能している	留学生のメンタル面での相談体制はまだ脆弱で、医療機関と連携しながら留学生のメンタル面の相談に乗れる体制構築が必要。

5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-24-9 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	3	経済的側面だけではない学費減免制度を設け、学生の経済的側面に対する支援を全体的に整備し、有効に機能させている。	学生の経済的状況に特化した支援制度が未整備のため、高等教育段階における負担軽減制度を機に整備していく。
5-24-10 奨学金制度が整備され、有効に機能しているか	4	2年次になるときに、審査の上認められた一部の学生に対し特別学習奨励費を支給している。公的な奨学金制度の活用も併用している。	特になし
5-24-11 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	3	学費の分納制度は設けられており、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能している。	特になし

5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-25-12 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	5	外部の医療機関に委託をし、年に1回学校に来校いただき、全学生の健康診断を実施している。	特になし

5-25-13 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	4	学生の健康管理を担う組織体制は事務局で分担しており、事務局が主体となって学生の健康診断を実施している。	事務局で学生の健康管理を担っているものの、日常的な健康相談には乗れないため、学校医や地域医療機関との連携が必要である。
5-25-14 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	3	学生からの健康相談等に専門に応じる学校医はいるが、こちらからの要請に応じて対応する体制である。	学校医はいるが常勤ではなく、こちらの要請に対して対応する状況なので、今後体制の見直しも検討する必要がある。

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-26-15 スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	4	学生サークルでは「英語サークル」が積極的に活動している。また、地域の豊島区役所、目白警察署と連携して語学支援ボランティアに取り組んでいる。	サークル活動は英語サークルのみの活動であるが、今後スポーツ系のクラブ活動も立ち上げ、支援していきたい。

5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-27-16 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5	ISI グループで学生寮 2 棟を備えており、遠隔地出身者のために支援を行っている。寮の管理人もおり、生活環境適応支援も行っている。	現状、学生寮を使用する学生が少なく、生活環境支援としては整っているが、あまり活用されていないのが現状。

5-28 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-28-17 保護者と適切に連携しているか	3	日本人学生については担任と保護者とが日常から連携しているが、外国人留学生の保護者とは連携するに至っていない。	外国人留学生だから保護者と連携できないと考えるのではなく、外国人留学生だからこそ良い面も悪い面も含めて保護者と連携しなければならない。

5-29 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-29-18 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	3	今年度同窓会組織を立ち上げ、TBL 祭にホームカミングデーとしてOB会発足式を実施。	今年は同窓会組織の立ち上げを行ったが、今後は、卒業生の自主的な活動を支援し、広げていくようにしなければならない。
5-29-19 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	2	同窓会組織を立ち上げたが卒業生をフォローアップする体制がまだまだ未整備。毎年学園祭に卒業生が来校できるよう整えていく。	卒業生のポータルとなる HP の整備は行ったが、卒業生が積極的に参加できるイベントなどを更に充実させていきたい。

総括	課題及び改善内容
<p>就職については就職希望者内定率 100%から逆算し、カリキュラム化、シラバス作成を推進している。そして効果的な説明会をどのタイミングですか戦略的思考が必要である。</p> <p>すべてを教職員で対応しようと思うと、特にメンタル面での不調を訴える学生への対応は難しくなり、やはり専門的な研修を受けるなり、専門カウンセラーによる相談体制等の整備が必要になってくる。ただ教職員と学生の距離が近く、面倒見の良い点は本校の特徴でもある。</p> <p>英語サークルが積極的に活動している。また、地域の官公庁、企業、地域団体とともに語学支援ボランティア活動も積極的に行っており、地域における本校の社会的評価、並びに学生の地域貢献に対する意識変革が急速に高まってきている。</p> <p>日本人学生については学校生活や出席状況で保護者と連携を取れているが、外国人留学生の場合は学校に来なくなった等何か問題が発生してからでないと連携できていない。遠い異国の地からご子息をお預かりしているという教育的責任を果たすため、外国人留学生の保護者についても連携の在り方を再検討しなければならない。</p>	<p>キャリアセンタースタッフと担任とが連携した学生指導を確立させ、毎年就職内定率 100%を実現していくために、社会のニーズに合わせて就職指導内容を改善していく。</p> <p>カウンセリングの研修や専門カウンセラーによる相談体制を整えるのも急務であると考えている。</p> <p>高等教育の修学支援新制度（無償化制度）の対象校となり、支援制度を充実させることができている。</p> <p>本校は外国人留学生も在籍しているため、日常的には保護者との接点を持ちにくい面もある。今後の検討課題である。</p>

基準 6 教育環境

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-30-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	本校ではすべての教室に電子黒板を導入し、教育のICT化を整備している。また、全館WIFIが整備され、十分な環境が整っている。	電子黒板やネットワーク施設をフル活用するために教員・講師がICT環境を活かした授業展開をし、教育の質の向上に努めたい。
6-30-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	4	法定点検、日常メンテナンス共に体制は整備されている。校舎の耐震診断が完了しているため、2020年度中に耐震工事の準備に入っていく。	日常メンテナンスに関してはルーティンでチェックできる体制が整っている。これからは耐震工事に向けて準備を進める必要がある。
6-30-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	4	法定点検は、指摘事項に則り計画的に遂行している。今年度は高圧電気設備キュービクルのリニューアル工事が完了した。	施設・設備の更新は今年度計画的に実施完了したが、次年度は耐震工事、施設リニューアルを計画する。

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-31-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	4	グローバルビジネス学科 2年次にシンガポールのMDIS、フィリピンセブでの集中英語研修など、教育体制を整備している。また、今年度初めてハンガリーのメトロポリタン大学との交換留学の実績が出来た。	課題は留学希望者がまだ少ない点である。早め早めの告知で、学生に周知して希望者を募る体制を整えたい。
6-31-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	4	学外実習やインターンシップ共に定期的に報告を受け、教育効果を確認している。	海外研修についてはその実績を把握し教育効果を確認している。インターンシップも確認しているが、更なる企業との連携が必要。

6-32 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-32-6 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	4	防災に対する体制は、整備されている（体制図、避難経路、備蓄等）。地元警察や消防署と連携し、避難訓練も年1回実施している。	整備された防災体制を有事の際に活かす為にも、実践に即した訓練を行い、PDCAサイクルを着実に回していく。
6-32-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	4	法定点検にて指摘された事項に則り、整備を行っている。担当者から関係者に周知、共有していく体制を整備している。	校舎の老朽化並びに設備・機器の経年劣化に伴う災害を起こす対象を関係者で把握し、全教職員が認識する体制整備が必要。
6-32-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	3	本校は語学・ビジネスの専修学校ということもあり、実習時等の事故は考えにくい、学生保険に加入するなど事故対策を取っている。	実習時の事故は考えにくい分野ではあるが、事故防止に対して常に気を配る体制整備をしていかなければならない。
6-32-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	3	通学途中・教育活動中の事故に関する損害賠償保険には学生全員加入している。また、本部と連携した防災組織も整えている。	災害被害に対しての保険が免責事項もあり、今後更に補償範囲の広い保険への切り替えも検討したい。
6-32-10 防災訓練を実施しているか	4	防災に対する体制は、整備されている（体制図、避難経路、備蓄等）。地元警察や消防署と連携し、避難訓練も年1回実施している。	整備された防災体制を有事の際に活かす為にも、実践に即した訓練を行い、PDCAサイクルを着実に回していく。

総括	課題及び改善内容
<p>電子黒板・WIFI 設備のように教育の質向上に向けた対応は十分進んでいる。施設・設備のメンテナンスに関しては今年度の高圧電気設備工事完了をもって十分な状態になった</p> <p>海外研修に参加する母数は少ないものの、グローバルビジネス学科の海外研修は他にはない訴求力のあるプログラムとなっている。英語キャリアの短期留学も着実に実績を積んでいる。インターンシップもカリキュラム化されており実施も安定している。</p> <p>年に1回防災訓練を実施し、地震が発生し校内で火災が発生したという前提で指定避難場所までの避難訓練を行っている。訓練は校舎全体で行っており、地元の目白警察署の誘導も協力を得ながら行っている。また、AED 講習や煙体験など豊島消防署の協力のもと訓練講話もいただき、地域と連携した防災訓練が図れている。</p>	<p>今後、施設面として、校舎の耐震化工事に着手しなければならないが、学園本部と連携して次年度以降に向けて計画的に準備していく。</p> <p>更にインターンシップの比率を増やししながら、体系だったカリキュラムとデュアル教育の展開を図っていく。</p>

基準 7 学生の募集と受け入れ

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

7-33 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-33-1 学生募集活動は、適正に行われているか	4	適切な情報提供や、問合せ・資料請求への即時対応、定期的なイベント開催、学校への訪問活動を通じて、学生募集活動は適正に行われている。	高校の進路指導とそのスケジュールに合わせ、適切なタイミングで、より多くの入学希望者と学校に本校の魅力を伝える工夫が必要である。
7-33-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	5	本校では学校案内で教育内容・教育成果を含む学校情報が示されているとともに、募集要項を日本人用と留学生用として2種類作成し、入学希望者に理解できるよう配慮している。	特になし
7-33-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	5	本校には独自の入試・広報窓口があり、志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制が整備されている。	特になし
7-33-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	5	本校の募集定員は180名であるが、すべての学科・コースで募集定員を満たす募集活動となっている。	留学生は募集定員の1/2までとの規定があるが、日本人の出願が伸び悩んでいる。当局に対し「総入学定員の2分の1を超える留学生受入れに関する申出書」を提出し、定期報告を行うことにより定員確保がなされている。

7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-34-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	4	専門学校において就職実績は重要な位置を占めるため、その教育成果は学生募集において正確に伝えられている。資格取得実績や卒業生の活躍等については十分伝えきれていない点がある。	就職実績はもちろん、資格取得実績、卒業生の活躍等も、入学希望者にとって入学を決定付ける重要な要素であることから、資料・掲示物にしてより正確に伝えられるような工夫を行っていく。
7-34-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	3	卒業生の活躍の教育成果が学生募集にどう貢献したかを正しく認識するカウンセリングは行っているが、根拠はやや足りない。	卒業生の活躍の教育成果を学校案内等で正確に伝え、入学希望者の入学決定要因が何であったのかを正しく把握するカウンセリングを引き続き行いまとめていく。

7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-35-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5	入学選考は、書類審査・筆記試験・面接試験と設け、合否判定基準に照らし合わせて適正かつ公平な基準に基づき行われている。	特になし
7-35-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	関係者のみ閲覧可能なデータベースで選考状況を管理し、合否判定会議のたび更新することで、入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握している。	特になし

7-36 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-36-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	4	本校の教育内容に照らし合わせて、学納金は学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっている。	現状では大きな負担があるとは言えないが、今後教材の ICT 化、実技の展開により、教材費の見直しも必要になってくる。
7-36-10 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	募集要項において、初年度学納金とその内訳、2年次の学納金とその内訳を明記し、入学希望者に周知徹底している。	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>本校では外国人留学生も入学することから、その募集と受け入れについては、これまでの成績や本校での学習意欲はもちろん、経費支弁能力までも審査した上での厳しい選抜を実施している。また本校では早めに学生を確保するという観点より、優秀な学生を確実に出席してもらおうという観点で募集戦略を展開しており、各高等学校や日本語学校との関係構築に努め、厳選した指定校推薦制度を導入することによって、確実に質の高い学生の確保に成功している。そういった出席優秀者や成績優秀者には学習奨励制度を設け、人物・成績共に優秀な学生を積極的に受け入れるとともに、がんばった学生はきちんと評価されるということを新入生にもきちんと示し、目標意識の高い学生確保の施策としている。</p> <p>学内で書類審査・筆記試験・面接試験を厳格に行う体制を整備し、合否判定基準に基づいて適正かつ公平な入学選考が行われている。</p> <p>また関係者のみ閲覧可能な入学選考に関するデータベースを管理・更新することで、入学選考に関する情報を一元管理し、その推移を学科ごとに正確に把握している。</p>	<p>日本人の在籍比率は 12.6%と決して高いとは言えない。数年後に日本人比率を 50%以上にすることが本校の目標であり、現時点での課題といえる。新コースでの日本人像を目指す。</p> <p>日本人学生を増やすために、本校の募集チームである入試広報センターと学校現場が連携を図り、募集活動を改善化していく。具体的には高校 3 年生に対する募集の時期が年々早まっていることもあり、学校の進路指導に合わせた早め早めのアプローチを入学希望者に対して、高等学校に対して拡大する必要がある。また入試広報センターから志願者に対して、本校の独自性や魅力を伝えるべく、高校 3 年生・既卒生を問わず、これまで以上に積極的な学校情報の提供と、魅力的なイベント開催を進める必要がある</p> <p>卒業生の活躍等の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する努力は継続しているが客観的な根拠はやや足りない。</p>

基準 8 財務

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-37-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	中長期的に本校の財政基盤を支えるものは、入学者数によるが、近年入学者数も安定しており、財政基盤も安定していると言える。	中長期的に本校の財政基盤を安定したものとするためには、入学者の安定確保であり、募集がどれだけ順調に伸びるかが重要である。
8-37-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	4	本校の主要な財務数値に関する情報とその推移については正確に把握しており、不明瞭な点があればそのつど解決し、修正している。	特になし

8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-38-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	4	本校の年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものになっている。	特になし
8-38-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	4	予算案に基づいて計画どおりに妥当に執行されている。	特になし

8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-39-5 財務について会計監査が適正におこなわれているか	5	本校の財務について会計監査は適正におこなわれている。	特になし
8-39-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	5	妥当なものとなっており、会計監査実施後、理事、評議員に対しての説明も実施されている。	特になし

8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-40-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	5	会計年度の財務情報を学校法人 ISI 学園ホームページにて行っている	特になし
8-40-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	5	同上	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>長期的に本校の財政基盤を支えるために、入学者数の安定確保をいかに図るかが重要である。その点では近年順調に入学者数も推移しており、安定していると言える。また主要な財務数値に関する情報についても、予算案と齟齬が生じた部分等についてはその都度解決し、修正を行っている。</p> <p>本校の財務について会計監査は適正におこなわれており、会計監査を受ける側・実施する側の責任体制も明確であり、監査の実施スケジュールも妥当なものである。</p> <p>会計年度における財務情報を学校法人 ISI 学園ホームページにて公開している。</p>	特になし

基準 9 法令等の遵守

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-41-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	5	法令や専修学校設置基準等が順守され、適正な運営がなされている。	特になし
9-41-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3	幹部教職員への啓発活動は出来ているが、全教職員・学生に対する啓発活動は十分とは言い切れない。	外国人留学生も受け入れていることから、いろいろな面で法令や専修学校設置基準や東京都の指針を順守するようにしている。ただ教職員・学生等への啓発活動はこれから取り組むべき課題である。

9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-42-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	『学校法人 ISI 学園個人情報の取扱いについて』、『学校法人 ISI 学園個人情報の取扱いに関する同意書』に基づき、学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策を講じている。	学校が保有する個人情報保護のための対策は組織としてはかなり進んでいる。一方一人一人の教職員の意識改革、日常業務での個人情報取扱いに対する改善が課題としてある。
9-42-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	4	当校として個人情報に関する教職員・学生向けへの啓発活動を今後も積極的に取り組む。	個人情報保護に対する教職員の意識は一定レベルにあるが、定期的に教職員・学生等に対する啓発活動をより積極的に実施していく。

9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-43-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	4	2015年度より自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。	2015年度より自己点検・自己評価を定期的実施することに着手し、現在問題点の改善に努めている。
9-43-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	3	自己点検・自己評価の実施が2015年度からであり、年間スケジュールに組み入れ、全教職員で取り組んでいる。	自己点検・自己評価と学校関係者評価、そして教育活動のPDCAを有機的に組み合わせることが課題である。
9-43-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	4	2015年度より自己点検・自己評価の実施・公開に着手し、その方針は関係者に対して伝わっている。	これから毎年定期的実施するなかで自己点検・自己評価に関する方針を関係者に対して正確に伝えたい。

9-44 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-44-8 自己点検・自己評価結果は公開しているか	5	学校法人 ISI 学園ホームページに公開している。	
9-44-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	5	自己点検・自己評価実施後は、速やかに、学園ホームページに公開することを決めている。	
9-44-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	5	自己点検・自己評価の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっており、外部団体からも評価をいただくようにしている。	

総括	課題及び改善内容
<p>個人情報保護に関する取り組みは学校法人 ISI 学園としても明確に規定を定め、その対策に常に取り組んでいる。当校としては学園の方針、規定に沿って学校が保有する個人情報保護に努めている。</p> <p>自己点検・自己評価の実施が 2015 年度からであり今年度 5 回目を迎える。自己点検・自己評価の実施を重ねる中で方針を明確に確立し、関係者に対して正確に伝えていきたい。そして学外に広く公開することで、いろいろな方々の意見に真摯に耳を傾け、問題点の改善に努めている。</p>	<p>教職員によって意識差があり、総体的に意識向上させるための定期的な啓発活動がこれからの課題である。</p>

基準 10 社会貢献

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-45-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	4	企業・団体との連携はかなり進んでいる。地域との連携も目白警察署や豊島区、東京都との間で一定成果が見られた。	これから更なる「職業実践専門課程」の認定も視野に入れ、企業との連携を深め、産学接続プログラムの実施を始めていく。
10-45-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	1	空き教室がまったくなく、週末もオープンキャンパスや教室レンタルを行っているために行えていない。	教職員の出勤体制を整えば今後検討していく。
10-45-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	3	TBL祭などの学校行事に合わせて地域の方や関連団体に開放し、連携している。	今後も積極的に推進する。
10-45-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	4	アメリカ、カナダ、イギリス、豪州、ハンガリーなど諸外国の高等教育機関と2+2コースを推進している。今年度は、初の交換留学生を送り出し、更なる共同研究・開発が進むものと思われる。	ハンガリーの交換留学生の第1期生2名の実績が出来たため、今後提携校からの交換留学の受け入れも進めていく。
10-45-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	3	防災上の問題については地域と連携し、取り組んでいる。	授業レベルでは各教員が重要な社会問題を扱っているが、学校全体のコンセンサスのもとの取り組みはこれからである。
10-45-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	2	防災上の問題については地域と連携し、取り組んでいる。	学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいない。他校の先行事例を参考にしながら、学校として重要な社会問題にどう取り組めるか検討する場を設けたい。

10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-46-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	地域の目白警察署、豊島区役所を始めとする関係官公庁とのボランティア活動を奨励、支援はしており、学生の地域貢献への意識が高まり積極的に参加している。	学生の自主活動や校内のボランティア活動等、学校として活動の場を積極的に且つ継続的に提供しているが、学生が自主的にという段階までには至っていない。
10-46-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	3	学校として取り組むボランティア活動の状況は把握している。個別に学生が活動しているものはまだほとんどないのが現状である。	個人面談での聞き取り及び面談記録カードや在籍管理システムにボランティア活動の項目を入れるようにし、記録としている。

総括	課題及び改善内容
<p>重要な社会問題について、学校としてどう取り組み、学生や教職員に対しどう啓蒙活動を行っていくのか現状では十分に組み合わせていない。問題意識がないわけではないが、そこまでできるだけ組織体制が未整備である。今後は特に他校の先行事例を参考にしながら具体的にどこから始めるか検討したい。</p>	<p>22 か国の国から学生が集まっている学校であるため、重要な社会問題について各国のバックボーンに気を付ける必要性はあるものの、世界から学生が集うキャンパスだけに重要な社会問題についていろいろな視点から討議する場があることが望ましいとは考えている。一気には難しいが、学校として重要な社会問題に具体的に取り組む礎をまずは作りたい。</p> <p>学校として取り組むボランティア以外に、学生のボランティア活動の状況を把握し、面談記録カード、在籍管理システムに記録として残すことも今後の課題である。</p>

平成19年の学校教育法改正により専修学校における学校評価が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から本校においても「学校自己点検・自己評価報告書」を作成した。

2019年度の報告書においては、文部科学省が発行する「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に学内に設けた委員会で議論を重ねた結果、以上の通り自己点検・自己評価報告書を作成した。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ 自己点検・自己評価報告書を作成するにあたり学内に設けた委員会のメンバーは以下のとおりである。

2020年5月

専門学校東京ビジネス外語カレッジ 自己点検・自己評価委員会

校長	並河 克彦
副事務局長	佐藤 貴志
教務副主任	伊藤 玲
教務	川本 千陽
教務	新藤 俊哉
教務	梅田 拓
教務	窪 寿恵
事務局	白 海蘭
事務局	濱 裕樹
キャリアセンター	米村 真識